

子ども食堂本格始動

八学大ボランティアサークル

八戸学院大人間健康学科の学生でつくる「八学ボランティアサークル」が本年度から、子ども食堂の運営に本格的に取り組んでいる。八戸市西白山台の施設を間借りして月1回開設。学生が勉強を教えたり、一緒に食事を作ったりして交流しており、メンバーは「子どもたちの居場所づくりにつながれば」と継続に意欲を見せる。

子どもたちと一緒に作るサークルのメンバー



月1回開設 食事作り、勉強指導も

サークルは、養護教諭や社会福祉士を志望する学生が集まり、昨年度発足。子ども食堂の運営団体などで構成する「子ども食堂in八戸」の代表を務める、同学科の佐藤千恵子教授が指導を担当している。本年度のメンバーは30人。

昨年度は福祉施設のイベント運営を手伝ったほか、夏と冬の長期休み期間に1回ずつ、子ども食堂を開いてノウハウを蓄積。今年5月から同市西白山台4丁目の「みんなの森オアゾ」内にあるフラットハウスを会場に、月1回のペースで子ども食堂を開設している。

23日は児童6人が参加し、サークルのメンバー9人と塗り絵やおにぎり作りを楽しんだ。昼食は自分たちで作ったおにぎりのほか、チキンナゲットやスイカなどを味わった。

(上條哲洋)

初めて参加したという西白山台小4年の女子児童は「最初は不安もあったけど、(サークルのメンバーが)いろいろな話をしてくれて楽しかった」と満足げ。

同大3年で、養護教諭を目指している類家光歩さん(18)は「毎回どういう活動をするか悩むけれど、子どもたちが『また来るからね』と言ってくれると、次も頑張ろうと思う」と充実した表情。今後へ向けて「子どもと触れ合う経験を積みながら、参加した子が楽しいと思う居場所をつくつ堂を開いてノウハウを蓄積。今年5月から同市西白山台4丁目の「みんなの森オアゾ」内にあるフラットハウスを会場に、月1回のペースで子ども食堂を開設している。

活動を見守った佐藤教授は「学生が運営を担うことで『自分たちもやってみよう』と思う人が増えて、地域の居場所づくりのハードルを下げることにつながれば」と活動の広がりを期待していた。